

ナミビアの陽射しを浴びて

ナミビア共和国
モーレソン特別支援学校
大久保雅弘



岡崎特別支援学校のみなさんこんにちは。

日本は段々と肌寒い日が増えてきているようですね。こちらは季節が逆なので、だんだん暑くなってきました。私が住む首都・ウィントフックは、35℃を超える日が続いていますが、地方に行くと45℃位になる時もあります。このように日本とナミビアにはさまざまな違いがあります。今日はその中でも「学校」に関する違いを紹介します。

1. 学年が違う?!

ナミビアの学年の分け方



小学校 7 年間



中学校 2 年間



高校 3 年間

※小学校入学の1年前に幼稚園に行く児童もいます。義務教育ではなく、保護者の意向で申請可能です。

日本は小学校6年間、中学校3年間、高校3年間というのが当たり前ですが、外国では学年の分け方が違うことが多いです。例えばフィンランドは小学校だけで9年間ありますし、スウェーデンは3年ずつ5回、合計で15年間の義務教育があります。なぜ分け方が違うのか、他の国の学年の分け方がどうなっているのか等もぜひ調べてみてください。

2. 時間割が違う?!

	月	火	水	木	金
7時30分	前半の授業(算数・英語など)				お祈り
9時30分	おやつ・休憩時間				
10時30分	後半の授業(体育・コンピュータなど)				
12時00分	給食				11:30 下校
12時30分	下校				



金曜日だけ
時間割が
違いますね!!

最も大きな違いは始まる時間と終わる時間です。朝は7時30分から始まり、午後の授業はありません。ナミビアの主な宗教はキリスト教です。そのため、金曜日には「聖書」を勉強するための「お祈り」の時間が設けられています。なかなかイメージがつかみにくい科目かもしれませんが、内容は「道徳」に似ているところがあるかもしれません。生きていく上で大切なことを学びます。そして、金曜日は下校時間も1時間早いです。日本の学校よりも朝が早く、終わる時間も早いナミビアの特別支援学校でした。

3.給食が違う?!



時間割を見て気付いた方もいるかもしれませんが、給食の他に「おやつ」の時間があります。食パンや、左の写真のような「パップ」と呼ばれるとうもろこしの粉を煮て作るものを食べます。パップはナミビアの主食で、多くの家庭で食べられています。また、おやつや給食は生徒が配膳を担当しています。

給食の内容はその日によって様々です。日本と違って牛乳はありません。私は普段は食べていませんが、お休みの生徒がいて給食が余った日は食べさせてもらっています。



この日の給食はパンにカレーが乗っているカレーパン。野菜はこの学校で育てたものが使われています。



4.校舎が違う?!

下の写真は、モーレソン特別支援学校の校舎の一部です。壁にはカラフルなビル群と木々が描かれていますね。この絵、実は生徒の皆が描いたものです。校舎にペンキで絵を描く機会なんてほとんどありませんよね。自由な発想が素敵です。

日本とナミビアの学校にはたくさんの違いがあることを紹介しました。自分が当たり前だと思っていることが、外国だと全然違ったりします。日本や岡崎だけでなく、違う世界のことも調べてみると面白いですよ。

